

名誉会員になられた方々

2015年4月21日の第4回定時総会において名誉会員に推戴されました方々（会長経験者を除く）を以下に紹介します。

Purnendu K. Dasgupta 氏

1949年12月インド生まれ。1977年 Louisiana State University で PhD in Analytical Chemistry を取得。1981年より Texas Tech University, 助教授・教授を経て、1992年に Paul Whitfield Horn Professor の称号を得る。2007年 University of Texas at Arlington に Jenkins Garrett Professor として迎えられ現在に至る。Editor of *Anal. Chim. Acta* (2004-), Editorial advisory board of *Anal. Sci.* (2006-), *Anal. Chem.* (A pages 1997-1999), *Atmos. Environ.* (1990-2001), *J. Microcolumn Separations* (1997-2001), *J. Process Contr. Quality* (1995-), *Talanta* (1990-)。受賞：2015年 ACS Division of Anal. Chem. Calvin Giddings Award for Excellence in Education, 2015年 IEEE Fellow (Ion chromatography and analytical instrumentation for environmental studies), Dal Nogare Award in Chromatography (2012), ACS Award in Chromatography (2012), 他多数。論文発表400報以上, そのうち150報以上が *Anal. Chem.* に掲載。多くの日本人が Dasgupta 教授のもとで研究を行い、国内の大学などで活躍。



小熊 幸一氏

1943年1月埼玉県大宮市生まれ。1965年東京教育大学理学部化学科卒業。1967年同大学大学院理学研究科修士課程修了と同時に通産省工業技術院東京工業試験所（現産業技術総合研究所）に入所。1968年千葉大学工学部助手、同講師、同助教授を経て、1992年同教授。2008年千葉大学名誉教授。1975年「イオン交換クロマトグラフィーによる金属イオンの分析化学的研究」により理学博士。1980～1981年カナダトロント大学博士研究員。1999年 FIA 学術賞。1999年度本会副会長, 1997年度本会関東支部長, ほか, 分析化学教育検討委員会委員長, 「ぶんせき」編集委員長, 日本鉄鋼協会理事及び監事。2000年本会学会賞。



木原 壯林氏

1943年8月山口県防府市生まれ。1967年京都大学理学部化学科卒業。同年日本原子力研究所東海研究所入所。1983年京都大学化学研究所助教授。1995年より京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科教授（材料科学専攻環境材料科学講座物質分析学担当）。2007年より熊本大学教育学部教授（理科教育学科化学担当）。1974年「カラム電極電解法による電極反応の分析化学的研究」により京都大学理学博士。1976～1977年米国ミネソタ大学博士研究員。1978年本会奨励賞。1991年～2001年 IUPAC Associate Member。1996年～2001年本会化学センサー研究懇談会委員長, 2000年同近畿支部長。ほか, 「ぶんせき」編集委員長, 日本ポーラログラフ学会会長。2002年本会学会賞。2014年日本ポーラログラフ学会60周年記念特別賞。



酒井 忠雄氏

1944年8月鳥取市生まれ。1967年鳥取大学教育学部卒業, 1972年4月岐阜歯科大助手, 1980年「アルカロイド系製剤の高感度, 選択的分光光度定量法の研究」により名古屋市立大学薬学博士, 1981年4月岐阜歯科大助教授, 1983～1984年米国フロリダ大学博士研究員, 1987年朝日大学教授(教養部), 1993年愛知工業大学教授。1999年博士(工学)(岐阜大学)。本会中部支部長, 2008年度本会副会長, 日本化学会東海支部支部長。2000年 FIA 学術賞, 2009年チャールズ大学(チェコ)メダル受賞。ほか, Journal of FIA 編集委員長, JAFIA 委員長, 「分析化学」編集委員長, Talanta, Guest Editor。2006年本会学会賞。



野村 俊明氏

1938年長野県生まれ。1960年信州大学文理学部自然科学科卒業。同年長野県精密工業試験場技師, 1965年信州大学文理学部(1966年より理学部)助手, 1970年同助教授, 1992年同教授, 1998～2002年同附属図書館長, 2003年同名誉教授。1969年京都大学理学部の流動研究員, 1975年ロンドン大学インペリアルカレッジ留学。1970年「水銀(II)キレートを用いる陰イオンの分析化学的研究」により理学博士(京都大学)。1996年度本会中部支部長, 2001年度分析化学討論会実行委員長。2004年本会中部支部中部分析化学功績賞, 1987年「分析化学」論文賞, 1993年本会学会賞。



本水 昌二氏

1944年2月岡山県生まれ。1966年岡山大学理学部化学科卒業, 1968年岡山大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了。同年岡山大学理学部助手, 1985年同助教授, 1992年同教授。1973年「ニトロソ化合物によるコバルトの抽出平衡と吸光度定量」の研究により京都大学理学博士。1983～1984年アメリカ合衆国アリゾナ大学博士研究員。1975年本会奨励賞, 1994年第37回油脂技術優秀論文賞, 2000年ワルシャワ大学メダル, 2001年本会学会賞, 2005年 FIA 学術賞, 2009年山陽新聞賞等受賞。Encyclopedia of Analytical Science, Talanta, Intern. J. Environ. Anal. Chem., RSC Anal. Methods 等 Advisory Board 歴任。1998年度本会中国四国支部長, 2000年度本会副会長, 本会第49年会実行委員長, FIA 研究懇談会委員長, 「分析化学」編集委員長, IUPAC Titular Member 等歴任。

